

準学校法人研修学院 大学予備校	柳通一の四四	二七年 二九年 三〇年	大学予備校（個人塾）として開講 研修学院大学予備校として大阪府認可 準学校法人研修学院の認可をうけ大学予備校設置
近畿美容専門学校	甲岸町二〇	二九年 三〇年 三〇年 三〇年	近畿美容専門学校として開校 財団法人の設立認可 近畿美容・美容専門学校と名称変更
東洋珠算専門学校	田端通四の五	二六年 二九年	私塾東洋経理学院として創設 大阪府認可をうけ東洋珠算専門学校と改称
花園珠算学校	旭南通四の一三	二三年 二九年	私塾大阪速算普及会創設 学校教育法八三条により花園珠算学校を認可をうける

第七章 社会福祉と医療機関

一 戦前の社会施設

戦前の市社会施設

当区は区内所々に戦災をうけたため、戦前豊かに有していた社会福祉施設はその殆んどを焼失するに至った。いま昭和一六年当時の主な区内の市施設をあげるとつぎの通りである。

市 設	名 称	所 在 地	実 施 事 項	設 置 年 月
	玉出住宅	千本通六丁目	住宅保護	大正九・一二
	今宮住宅	東入船町	同	昭和四・二
	今宮保護所	東田町	宿泊	昭和四・二 七・一（本館） 七・一（分館）
	西成弘潤寮	桜通八丁目	居室供給	昭和八・五
	今宮質舗	花園町	庶民金融	大正一四・九
	西成託児所	桜通八丁目	幼児保育	昭和八・三
	西今宮託児所	南開五丁目	同	昭和一一・六

玉出市民館	辰巳通一丁目	隣保事業	昭和二・一〇
今宮市民館	旭南通一丁目	同	昭和一五・三
徳風勤労学校	甲岸町	貧困児実業教育	明治四四・七
今宮産院	梅通二丁目三の三	胎児及母性保護	大正一〇・六 昭和一五・七 (改築)
塚西育児相談所	辰巳通二の一四	乳幼児相談	昭和一四・六
今宮育児相談所	南神合町二九	同	昭和一四・一一
大阪市トラホーム 西今宮診療所	南開六丁目 今二衛生組合事務所内	トラホーム診療	昭和一二・四
大阪市トラホーム 玉出診療所	田端通二丁目三 玉出衛生組合事務所内	同	昭和一三・一一
西今宮予防相談所	南開五の四 市立西今宮健康相談所内	性病相談及診療	昭和一三・八
塚西健康相談所	辰巳通二丁目一四	結核予防相談	昭和一三・三
西今宮健康相談所	南開五丁目四	結核予防相談	昭和九・一〇

簡単に右の諸施設を説明すると、玉出住宅（一五戸）は玉出町よりの本市への引継住宅であり、今宮住宅（七七戸）は不良住宅地区改良法にもとづき建設されたものであった。また今宮保護所は、昭和三、四年の頃打つづく不景気と深刻な失業によって生活の道を失った無宿者の増加に際し、かかるルンペン階層の者を保護收容するため、市内篤志家の寄付によって昭和四年設立をみたもので（定員一二〇名）、ついで分館は（定員三〇〇名）もと大阪救護協会が建設し九年七月本市に寄付をうけたも

西成弘潤寮

のであった。本保護所は宿泊所は無料で收容者には職業補導その他適当な教化方法を講じその生活更生が期せられた。（二〇年九月閉鎖）西成弘潤寮は、はじめ昭和八年五月大阪救護協会が、救護法による被保護者中の单身者または小教家族者でその支給された救護費のみで生計維持困難のものを居住し保護善導する目的で設立したものであった。そして同会解散とともに本市に寄付され当初西成共同住宅、さらに西成厚生寮、西成弘潤寮と改称した。

徳風尋常
小学校

市設託児所については西成・西今宮のほか二市民館にもそれぞれ附設託児所があった。徳風尋常小学校は、明治四四年七月現在の浪速区南高岸町に誕生したものである。その頃の木津今宮の一部（いまの広田町・関谷町・日東町・下寺町・高岸町・船出町等）の貧困児童に対し、学校経営費として毎月三五円を久保田権四郎が醸出し、木津第二の浅井清太校長に委嘱し開校されたものであったが、翌年六月同区広田町に移った。はじめは夜間校であったが、大正二年には昼間部を置き、大正一一年三月末大阪市に移管され市立徳風尋常小学校となった。特異な環境内にあった学校のこと故、不就学児童收容のため異常な努力が加えられ、大正二年には児童浴場の設置、同一三年には歯科診療の開始、同一四年には公費による昼食の給与など独特のものがあつた。そして昭和九年付近の発展と校舎の狭隘、腐朽のため一四万六千余円で移転改築のことが市会で認められ、大正一三年当区甲岸町の現西成市民館の位置に移った。

徳風勤労学校

その後昭和二年六月小学校のわくをはずし特に運用の自由がある勤労学校に改組、貧窮児童に対す

る特別保護教育に全力をあげた。しかし昭和一六年四月小学校が国民学校と改められた際、徳風国民学校となったが、二〇年三月釜ヶ崎の戦災とともに戦災をうけ廃校となった。なお昭和一一年保護者の更生を図るため、従来の保護者会のほか地域の組織として今宮報徳社が設立され地域改善に成果をあげた。

保健施設
その他

つぎに保健衛生施設としては、旧今宮町より引継いだ今宮公民病院を改装した今宮産院をはじめ、保健所設置までには育児所、トラホーム診療所、予防相談所、健康相談所などがあつた。しかしこれらの施設も殆んど戦災のため多大の被害を蒙り、戦後に新たに施設されたものが多かった。すなわち旧今宮保護所跡に建設された今宮市民館(二年三月)、更生施設としての西成寮(三年三月)、経済保護事業としての今宮質舗(二六年三月再設)あるいは保育所をはじめ愛隣会館、長橋市民館、愛隣寮、今池生活館、老人福祉センターなどその大部分は戦後開設されたものであつた。

つぎに市設以外の施設として戦前あつた主なものは左の通りである。

私立社会福祉施設

名称	所在地	種類
西成労働紹介所	旭南通五丁目	職業紹介
大阪市統後奉公会	千本通三丁目 西成区役所内	軍事援護
西成区聯合会		
今宮第一方面委員事務所	甲岸町 萩之茶屋国民学校内	救護
今宮第二方面委員事務所	旭南通五丁目 今宮市民館内	同

玉出方面委員事務所	辰巳通一丁目一四 玉出市民館内	同
聖心セツトルメント	海道町三六の一	保育・医療保護
大阪自強館	西今船町五	宿泊・保育・隣保事業
四恩学園	東入船町二三	隣保事業
大阪公道会西成区支部	千本通三丁目 西成区役所内	融和事業
みのり子供園	長橋通一丁目一	託児保育
清和会	東入船町二八	宿泊保護
大阪府協和会	長橋通七丁目一〇	隣保・保育・住宅・産業
今宮隣保館		
日本赤十字社大阪支部	津守町八三七の七	医療保護
西成区津守診療所		軍人遺家族援護
今宮診療所	海道町一一	一般救療
弘済会木津保育所	中開三の四九	隣保事業

労働紹介所

西成労働紹介所は、当初大正八年九月浪速区宮津町(現我本町)今宮共同宿泊所内に市設今宮労働紹介所として設置されたのはじまり、ついで同一一年四月今宮職業紹介所と合併し、その労働紹介部として昭和三年四月より東入舟町で日雇労働紹介を専門に取扱っていた。そして昭和一一年二月旭南通五丁目に移転、西成労働紹介所と改称したが、昭和一三年七月一日職業紹介は国宮に移管されることとなった。その後名称はしばしば変つたが、二〇年一〇月には甲岸町、二五年現位置の東萩町に移転、阿倍野職業安定所西成労働出張所となり、さらに四一年四月一日から大阪港労働公共職業安

定所西成出張所となっている。銃後奉公会は昭和一四年一月事変の長期化に対応し軍事援護諸団体の整備を目指して政府より懇懇され、本市では従来の軍人遺家族援護組合を改組拡充を図ったものである。方面委員事務所は本区ではいずれも昭和五年一月創設をみた。

大阪自彊館は明治四五年六月市内下層労働者の保護救済を目的として開設され、以来浮浪者および刑余者の更生道場として努め来り、現在も生活保護法による更生施設としての自彊寮、社会福祉事業法による宿泊施設としての向上寮、更生緊急保護法による更生保護会としての和光寮と職業安定法による無料労働紹介所ならびに診療所を有している。四恩学園は大正九年二月四恩報答会（北区西寺町西福寺内）の経営として同一〇年一〇月児童相談部、同一四年四月保育部託児所、昭和八年六月授産部を開設するなど隣保事業を通じ地区改善に大きく貢献したが、三八年一月閉鎖され、現在その跡は労働福祉センターとなっている。なお四恩学園は今も住吉区の乳児院など福祉事業を継続している。

釜ヶ崎地区 の諸施設

戦前、釜ヶ崎地区など過密地区に対する社会福祉施設としては、上記のほか隣区浪速区の一部を含め、市立今宮共同宿泊所（宮津町一丁目）市立今宮簡易食堂（宮津町一丁目）市立今宮乳児院（宮津町一丁目）今宮簡易宿泊所（東田町七三丁目）大阪救護協会開設昭和七年一月、のち市立今宮保護所分館）恩賜財団済生会大阪府今宮診療所（大正二年四月恵美須町二の二に開設、大正一三年貝柄町に移転）財団法人大阪職業紹介所（恵美須町二の二一六、職業紹介・宿泊事業、昭和一三年職業紹介廃止）市設今宮質舗（当初今宮町立職業紹介所）今宮産院（橋通五丁目）当初今宮公民病院、昭和一五年梅通二丁目に移転、

二二年六月今宮市民病院と改称）、鳥井合名会社事業部今宮診療院（海道町一丁目）昭和二年六月、現在社会福祉法人邦寿会今宮診療所）等が数えられた。

二 西成区福祉事務所（西成区役所内）

西南部民生 安定所

戦前の救護関係法規が戦後全面的に改正せられ、区に民生係が誕生して生活保護に関する事務、児童福祉に関する事務の取扱を実施することとなったが、昭和二五年五月これら民生関係事務は区長より分離され、民生局所管の事業所として西南部民生安定所が発足した。

西成区福祉 事務所

この西南部民生安定所は全市九カ所の一つとして創設をみたもので本区および浪速区を所管し、西成区役所内に事務所を置いたが、二八年九月各区に福祉事務所として新発足した。区役所内に事務所が置かれ、いわゆる福祉四法（生活保護法・児童福祉法・身体障害者福祉法・精神薄弱者福祉法）に定める事務のほか、イ民生（児童）委員に関すること。ロ、母子福祉資金の貸付および回収に関すること。ハ、母子相談員に関すること。ニ、戦傷病者戦没者遺族等援護法に定める事務に関すること。ホ、社会福祉関係の諸統計に関すること。ヘ、社会福祉施設および関係団体との連絡に関すること。ト、そのほか社会福祉に関することなど福祉行政全般の事務を取扱ってきた。機構としては所長の下に四係が置かれている。

たが、二二年一〇月当時第一方面菘之茶屋小学校内、第二方面旭南通今宮市民館内、第三方面玉出市民館内、第四方面中開三丁目浮田託児所内の四方面に分れそれぞれ事務所をもっていた。(方面委員数約八〇名)

民生委員

そして二二年一〇月生活保護法の実施とともに、方面委員令が止められ、はじめて民生委員が誕生し、また二二年一二月には児童福祉法によって児童委員制度が設けられ民生委員が児童委員を兼ねた。二三年七月にはまたそれまで根拠となっていた民生委員令も廃止され、新たに民生委員法の制定とともに西成区民生委員協議会が設けられた。そして二五年五月には生活保護法の改正によって従来補助機関の性格であった民生委員は、福祉事務所をはじめ関係行政機関の業務に協力する立場に改められた。なお二二年一〇月方面委員制が民生委員制に改革された際、民生委員選任の手続として区に民生委員小推薦会が設けられ、区の委員会において推薦したものを市の民生委員推薦会において詮考し、さらに同様の審査会において詮考した上、厚生大臣がこれを委嘱する手続となったが、現在市長より厚生大臣に直接推薦されている。

民生委員
推薦会民生委員の
任務

この民生委員は広く福会福祉の分野において創意と工夫をこらした自主的活動をもって活動の根幹としているが、特に低所得者階層(ボーダーライン層)に対する世帯更生運動の推進、児童・青少年の健全育成、母子・老人・身体障害者の福祉向上、地区組織活動の充実強化、公的社会福祉事業等への協力等大きな役割を果し来っている。

社会福祉
協議会

つぎに社会福祉協議会は、区内社会福祉事業関係者および社会福祉に関心をもつ地域居住者が相協力して地区内住民の福祉増進を図ることを目的として、昭和二五年二月八日会員組織により結成したものである。はじめ児童福祉・援護・保健衛生・婦人・広報の各部会が設けられたが、二九年には青少年の社会問題が強く叫ばれるようになり、ために児童福祉部を発展的解消して青少年対策部を設置し青少年の指導育成と不良化防止に努めることとした。かくて青少年部(三一年四月改称)ではヒロポン撲滅、児童遊園の設置、青少年の保護育成、援護部ではとしよりの日を中心とする行事および老人クラブの育成をはかり、保健衛生部では蚊とほえをなくする市民運動、婦人部では母の日を中心とする種々の行事、広報部では会の広報活動を受け持つなど区内の社会福祉の増進に多大の寄与をなしてきた。

現在、その事務所を区役所内におき、弘治・萩之茶屋・橘・松之宮・玉出・岸里・千本・山王・天下茶屋の九地区にそれぞれ社会福祉協議会の結成をみている。

赤十字
奉仕団

赤十字奉仕団(はじめの日赤奉仕団)は博愛奉仕の精神を基調として社会正義観によって厚生・福祉・保健・衛生の各事業に自発的に奉仕し、住みよい社会、平和的な国土の建設に寄与するとともに災害の発生に際しては災害救助法にもとずいて区災害救助隊の協力部として奉仕するものである。すなわち戦時中あった町会は国家目的のため上意下達の機関とみられていたが、戦後二二年六月解散となったので、これに代って日赤は新しく全く自治的な隣保制度として生まれたもので、人類愛にもと

づく奉仕をもとし、政治・宗教に全く中立的なものである。

従って例えば二五年九月三日のジェーン台風では災害地に対する食糧の炊出し、あるいは二七年五月の鳥取大火、二八年六月の九州地方災害などには義捐金を送って救援するなど単に地域のみならず全国的に救済運動を展開した。また終戦後新憲法の施行に伴い国家および地方公共団体は、その公金をもって私設の慈善事業に補助を与えることが出来なくなった。そのため多くの私設の社会事業団体ではその運営に少なからず支障を来すこととなり、わが国でもアメリカなどのコミュニティ・チェストに倣って全国的な「たすけあい」運動が開かれ、それによって得た拠金は社会事業団体の運営費の補助金として、あるいはその施設の奨励金として配分しまた直接要援護者に対しても援助金として支給されるという共同募金運動が開かれることとなった。かくて本区にも府・市の募金委員会と同様西成地区募金委員会が結成され、赤十字奉仕団が主となって年々優秀な募金成績をあげ来った。なお赤十字社の経費を拠出する日赤募金は当初共同募金と同時に行なわれたが、二五年以来五月に白い羽根の日赤募金、一〇月に赤い羽根の共同募金と分け別々に実施されることとなった。

四三年五月当区共同募金受配団体および施設

団体名(施設名)	所在地	団体名(施設名)	所在地
大阪自彊館	西今舟町	西成社会福祉協議会	区役所内
同上寮	同右	めぐみ保育園	南開六丁目
同 白雲寮	同右	ひかり保育園	津守町東四の二〇六

災害救助

同 和光寮 同右 日本キリスト教
朝 光 寮 松田町一丁目 トロフィー教会
西成児童館 南開町六丁目一四 区内児童遊園 一三カ所
また、赤十字奉仕団が強力な一翼として活動する災害救助隊は、昭和二二年一〇月の災害救助法の制定にもとづくものである。そして二三年二月本区でも区災害救助隊が結成され災害時に救済と保護を強力迅速に行ない来ったが、三八年三月一層組織を充実し、大阪市災害対策本部西成区支部に改組し、西成災害医療団、大和川右岸水防組合の津守三分団等とともに災害時の救助の万全を期した。

保護司会

保護司は犯罪者予防更生法第二〇条、保護司法の定めるところにより、保護監察官で十分でないところを補い、地方委員会または保護観察所の所掌に属する事務に従事することになっており右の改正以前にあつては司法保護事業法（昭和一四年九月施行）の定めるところにより司法保護委員として事務を行なつてきたもので、起訴猶予者、刑執行猶予者並びに保護観察に付せられた者等を保護して犯罪者を社会の中において善良な社会人に更生せしめ、その者の幸福はもちろん、再犯を防止し社会の安全を図る任務をもっている。また犯罪性のある少年の保護については、大正一二年一月一日施行の旧少年法に罪を犯し、または犯す虞れある少年に対し少年保護司の保護観察に付することが規定されていた。

戦後二四年七月一日犯罪者予防更生法が施行され、保護観察の制度は国の刑事政策による一連の制

度の最後のな締めくくりの分野とされ、その実際の任にあたる保護司は、二五年五月二五日保護司法の施行によりその身分は、国の刑事政策の執行を担当する地域社会の社会的信望のある民間人の中より、法務大臣が委嘱する無報酬の国家公務員としてその任務が法的に定められた。

犯罪者予防更生法は、当初少年に対する処理を少年保護司に、また成人に対する処理を成人保護司に委嘱され、当区でも少年保護司会と成人保護司会（定数各五〇名）に分れていたが、二七年合同して西成地区保護司会となり、現在定数一六四名、事務所を区役所振興課内に置いている。なおまた婦人の更生保護のため三九年七月一二日西成区更生保護婦人会が設置された。

四 現在の社会福祉施設

市立愛隣会館（東田町七三の一）

愛隣会館

本館は昭和三六年八月のいわゆる釜ヶ崎事件後、スラム問題に対する理解と関心が深められ、民生・教育・衛生・警察の各分野にわたる総合社会福祉機関として事件発生一周年にあたる三七年八月八日もの今宮保護所跡に開館したものである。戦後本地区では浮浪者収容施設としての今宮保護所が二一年進駐軍の命で廃止され、二四年徳風勤労学校跡に西成市民館が再建され地区改善の中心となっていたが、その後の地区の不良化甚だしく、区内の各種団体が立ち上って三五年九月西成愛隣会が組織され改善に資するところがあった。

主な事業

本館は敷地四八九・〇三平方メートル、鉄筋コンクリート五階建、延建築面積一、六六八・七三平方メートルの堂々たる建物（建設総額六、三一五万円）であるが、その事業としてはつぎのように多角的にわたっている。

あいりん銀行（あいりん貯蓄組合）

自由労働者のその日暮しの無計画性に生活秩序をたてさせるため、貯蓄を奨励し自立更生を助長する目的のもので、三七年一〇月開設し、午前九時より午後八時まで開業している。

小口生活資金貸付

食事代、部屋代、傷病治療費等の自己所持金を欠く場合の応急的措置としての資金で、無利子、無担保、保証人なしという一般行政の枠を越えた貸付制度である。（世帯持三、〇〇〇円以内、単身者一、五〇〇円以内）

吉村資金貸付（一般貸付）

自立更生のため必要な資金（二口五、〇〇〇円）を貸付け、特別な事情がある場合は三口まで貸付する。利息日歩一銭。

戸籍住民登録

戸籍住民登録をしていないものが多いため、その必要性を強調し、本人が仕事を休まなくても登録できるように困難な手続の代行をする。

生活保護相談

生活保護、身体障害者福祉、精神薄弱者福祉、老人福祉等の相談手続を処理し、保護費の支払も会館で実

施。

婦人相談

昭和三年四月一日売防法施行に伴い設置された婦人相談員三名をもって、要保護、就職、医療、家庭調
整、結婚、住宅、入寮帰郷等の相談実施。

防犯相談

西成警察署の防犯相談コーナーの男女警察官各一名が常駐し、家出、賃金不払い、生活困窮その他警察的処
理を要する相談を受持つ。

児童福祉相談

養護、触法、看護、精神薄弱児、肢体不自由等の相談指導、施設斡旋。

更生保護相談

非行少年、犯罪前歴者更生のための身上相談に応じ指導助言並びに保護観察を行う。

ベビーセンター

子供をあずけて働きたいと希望する母親のため、それらの子供を昼間（午前七時半～午後六時）収容し養育
する（定員三〇名）

社会学研究室

あいりん地区を社会的視野から調査研究して地区の実態を把握し地区対策に貢献するを目的とする。

集 会 室

あいりん地区総合福祉対策に関連する各種会合、労務者の団体の会合に使用。

娯 楽 室

二五畳敷の和室で将棋盤、碁盤各一〇
台を用意し、地区住民の健全娯楽の場と
する。

西成保健所分室

地区内の簡易食堂、興行場、理容所等
の認可、認定、監視、指導、各種予防注
射、保健指導を担当。

授 産 場

内職で家計を助けたい婦人のため簡易
で年中仕事の切れない工賃の割高な作業
を目標とし、実働六時間半。

なお授産場には簡易託児室（定員五〇
名）を設け授産生の幼児の体育を行う。
その他あいりん小、中学校など。

会館内部配置模様

五階	あいりん中学校									
四階	あいりん小学校									
三階	集 会 室 (生活指導室)					社会学研究室 娯 楽 室				
二階	ベビーセンター									
一階	事務室	あいりん 銀行	資金貸付	生活保護 相談	児童福祉 相談	婦人相談	防犯相談	更生保護 相談	戸籍住民 登録相談	保健所室

職 員 構 成

館 長	1	児童福祉司	1	食品衛生 監視員	1
主 査	1	婦人相談員	3	食 品 衛 生 保 健 婦	3
事 務 員	5	保 母	4	現 業 員	3
嘱 託	3	看 護 婦	1	防 防 コーナー 犯 員	2
社会福祉主事	2	環 境 衛 生 監 視 員 (主査)	1	保 護 観 察 嘱 託	1

市立西成市民館（甲岸町二）

戦前当区内には玉出（辰巳通二丁目）今宮（旭南通）の両市民館があったが、戦災のためいずれも不幸焼失した。しかし戦後混乱のなか隣保事業施設の再設置が強く要望され、昭和二年三月旧今宮保護所（東田町所在）北館を改装して今宮市民館として発足した。そしてその後地元の機能拡充の要望に応え、三〇年四月現在地のもと徳風小学校の残存建物を改築の上、西成市民館と改称し再発足した。なお旧館は付設保育所として現在に至っている。

また、昭和三五年九月地域福祉増進の自主的な組織として西成愛隣会の結成をみ、その事務局も当館内に置かれたが事業実施の拠点として隣接空地を買収して愛隣会館が建設され地域のニードを充たす機能を果しつつあったところ、三十七年八月新愛隣会館が建設され、旧愛隣会館はその付設授産場となった。

敷地 四二七平方メートル 建物鉄筋二階建 四〇九平方メートル

主な事業

相談事業、教化厚生事業、経済保護事業（西成内職指導所として内職あつ旋等）、児童福祉事業、青少年福祉事業、老人福祉事業、医療保護事業、社会調査、貸会場（講堂定員一〇〇名、会議室定員二〇名、和室定員二名）

市立長橋市民館（中開四の五）

長橋市民館

本館は同和地区改善対策の一環として、地元の要望に応え、昭和三八年一月七日もとの開小学校跡をならし、総工費一四〇〇万円余を投じ三九年六月一日（但し開館式は同年九月一九日）竣工をみたものである。以来同和地区における隣保事業施設として地域社会の様々なニードに対応した各般の事業を展開し来っている。

主な事業内容

- 1 社会事情の調査および研究
- 2 市民生活の相談指導
- 3 講演会、講習会その他教養講座の開催
- 4 レクリエーションおよびグループ活動の指導促進その他

市立愛隣寮（東田町一五一七）

愛隣寮

本寮は霞町交叉点東北角に位置し、地上五階地下一階の鉄筋コンクリート造建物である。当初民間人によって建設されたが、建設後間もなく市が買収し改装工事ののち三十七年一月一日より開館した。

当初七〇室を有し、七〇世帯を収容していたが、四三年八月に改装、九月から五〇室五〇世帯とした。そして開館以来四三年八月までに約二〇〇世帯が府、市営住宅その他へ転出している。なお近く

三 社会福祉事業連絡助成機関

区内社会福祉助成団体

つぎに広い意味に解して、これらの助成機関をあげると大要左の通りである。

団体名	事務所設置場所	設立年月日
西成区民生委員協議会	区福祉事務所内	昭和二十三年七月二十九日
大阪市民生委員連盟西成支部	同	二十二年七月
西成区民生委員児童委員推薦会	同	二十一年一月一日
西成区民生委員児童委員	同	二十五年二月八日
西成区社会福祉協議会	区振興課内	二十三年七月一日
西成区赤十字奉仕団	同	
大阪共同募金西成地区募金会	同	
大阪市災害対策本部	区役所内	二十三年二月
西成区災害医療団	西成区医師会館内	二十三年四月
西成地区保護司会	区振興課内	二十五年五月二十五日
西成地区更生保護婦人会	同	二十九年七月二三日
未帰還者留守家族世話会	同	
西成区傷痍軍人会	区福祉事務所内	二十七年一月

西成区傷痍軍人妻の会	同	
西成区身体障害者団体協議会	同	昭和二十六年七月二二日
西成区肢体障害者団体福祉会	区福祉事務所内	三十四年四月一日
西成区盲人福祉協会	同	二十三年七月
西成聴言障害者福祉協会	同	二十七年二月二十四日
西成区婦人団体協議会	区振興課内	二十一年一月一日
西成区未亡人会	同	二十六年五月
西成区老人クラブ連合会	同	二十八年
西成区遺族会	同	二十三年二月二二日
西成区青年団体協議会	同	三十五年九月一五日
西成愛隣会	東田町七三の一 愛隣会館内	三十五年九月
大阪市同和事業促進協議会	同	
西成地区協議会	南開四の二 文化温泉二階	
部落解放同盟大阪府連合会	同	
西成支部	同	

方面委員

いまこれらの数団体についてその沿革をしるすと、

まず民生委員制は、大正七年米騒動を背景とした社会情勢のもとに設置された大阪府方面委員制に端を発しているが、その当初任意制であったのをその活動と成果が大であったことにより、昭和一一年勅令をもって方面委員令の制定をみるに至った。そして区内における方面委員数は時に変更があつ

市立西成市民館（甲岸町二二）

戦前当区内には玉出（辰巳通二丁目）今宮（旭南通）の両市民館があったが、戦災のためいずれも不幸焼失した。しかし戦後混乱のなか隣保事業施設の再設置が強く要望され、昭和二二年三月旧今宮保護所（東田町所在）北館を改装して今宮市民館として発足した。そしてその後地元の機能拡充の要望に応え、三〇年四月現在地のもと徳風小学校の残存建物を改装の上、西成市民館と改称し再発足した。なお旧館は付設保育所として現在に至っている。

また、昭和三五年九月地域福祉増進の自主的な組織として西成愛隣会の結成をみ、その事務局も当館内に置かれたが事業実施の拠点として隣接空地を買収して愛隣会館が建設され地域のニードを充たす機能を果しつつあったところ、三七年八月新愛隣会館が建設され、旧愛隣会館はその付設授産場となった。

敷地 四二七平方メートル 建物鉄筋二階建 四〇九平方メートル

主な事業

相談事業、教化厚生事業、経済保護事業（西成内職指導所として内職あそび等）、児童福祉事業、青少年福祉事業、老人福祉事業、医療保護事業、社会調査、貸会場（講堂定員一〇〇名、会議室定員二〇名、和室定員二名）

市立長橋市民館（中開四の五）

長橋市民館
本館は同和地区改善対策の一環として、地元の要望に応え、昭和三八年二月七日もとの開小学校跡をならし、総工費一四〇〇万円余を投じ三九年六月一日（但し開館式は同年九月一九日）竣工をみたものである。以来同和地区における隣保事業施設として地域社会の様々なニードに対応した各般の事業を展開し来っている。

主な事業内容

- 1 社会事情の調査および研究
- 2 市民生活の相談指導
- 3 講演会、講習会その他教養講座の開催
- 4 レクリエーションおよびグループ活動の指導促進その他

市立愛隣寮（東田町一五一七）

愛隣寮
本寮は霞町交叉点東北角に位置し、地上五階地下一階の鉄筋コンクリート造建物である。当初民間人によって建設されたが、建設後間もなく市が買収し改装工事のち三七年二月一日より開館した。

当初七〇室を有し、七〇世帯を収容していたが、四三年八月に改装、九月から五〇室五〇世帯とした。そして開館以来四三年八月までに約二〇〇世帯が府、市営住宅その他へ転出している。なお近く

の今池生活館との相違は、同生活館が五名以上の大世帯を対象としているのに対し、当寮は二〜四名の小家族世帯を対象としていることである。

市立今池生活館（今池町四七の一）

今池生活館

本市はかねて愛隣地区の明るい街づくりの一環として愛隣会館、愛隣寮、馬淵生活館並びにみなと宿泊所など建設し来った。しかし地区居住者の多くは保護者不在のため家庭保育に欠ける児童の多いこと、家族もちの低所得者のための適当な住居が確保できないこと等から保育と低家賃住宅の設置が要望された結果、昭和四〇年三月保育所を併設した本生活館の竣工（建設費七、一七四万円）を、同年六月一日より事業開始した。

- 敷地面積 四、四六四・七九平方メートル 延建築面積 一、三八六平方メートル
- 構造 鉄筋コンクリート五階建
- 主な設備 一階 事務室、保育施設 二階 保育室、第一・第二生活指導室、第一・第二学習室 三〜五階 宿泊施設三〇室（各室、六畳、二畳相当板の間、押入、物入、下駄箱）、炊事洗面室、屋上洗濯場、物干場、施設使用料一世帯一カ月一、七〇〇円

市立西成老人福祉センター（長橋通一の二二）

老人福祉センター

近時国民の平均寿命がのび、老人人口は急激に増加し来ったが、老人の日常生活はややもすれば孤獨な余生とともに生活苦を招来し、また家庭内における問題等で必ずしも幸せな生活を送ることがで

きないという一般の実情に鑑み老人福祉の必要性が痛感された。かくて本市老人福祉の拠点とするため本センターの設置が計画され、昭和三八年二月総工費一七〇〇万円を着工、八月完成十一月五日より開館した。

- 敷地 八二・二七平方メートル 鉄筋コンクリート二階建 延面積 五一六・三六平方メートル
- 主な事業 生活・身上・職業の相談指導、健康診査と保健指導、各種教養講座の開催、レクリエーションおよび老人クラブ活動の指導、その他浴場サービス、関係団体、大阪市老人クラブ連合会、老人クラブ数三四一、会員数五一、二〇〇人

市設今宮質舗（花園町三三）

今宮質舗

本市の公益質舗は大正一三年二月一日開設された天六質舗がその最初であるが、翌一四年八月五造質舗、ついで同年九月本市で第三番目の質舗として今宮質舗が花園町に誕生した。しかしこの質舗は二〇年の戦災で焼失し廃止されるに至った。かくて新たに二六年三月一日もとの場所に本質舗が開設した。

- 敷地 四六四・二二平方メートル 鉄筋コンクリート造二階建 延面積 三二九・二二平方メートル
- 職業別入質者比率（三九年一〇月現在）
- 労働者 俸給者 工業者 商業者 その他
- 三三% 二五% 一二% 一七% 一三%
- 質物別入質者比率

衣類	装身具	器具	その他
四一%	二七%	一九%	一三%

公私立保育所

戦前の公立
託児所

保育所は以前は託児所といわれ、幼児の身心の健全な成育を保護助長するとともに、勤労階級の労働能率を高めその保護者が安んじて業務につく便宜を与えかつ児童を通じてその家庭の向上を図るを目的とした。こうした託児所としては、大正八年七月誕生の大正区の鶴町第一託児所が最初であったが、戦後託児所は新たに児童福祉施設として保育所と改められた。かくて現在区内に市立保育所として、東田町七六に西成市民館保育所（昭和四年二月創立）、千本通六丁目三一に千本保育所（二年七月創立）橋通七丁目一〇に西成保育所（二年九月創立）がある。このうち市民館保育所は当初今宮保護所内に創設され、千本保育所は昭和二〇年千本通四丁目の寺院に戦時託児所して発足したものであった。

市立保育所

私立保育所

つぎに私立保育所としては左のものがある。

名 称	所在地	創立年月日	主 な 沿 革
恵光保育園	南吉田町六一	昭和三年五月二日	当初南神合町三六自宅にて開園 二六年八月南吉田町六一に園舎新築
聖化保育園	千本通六一	二年四月一日	設立者日本自由メソジスト岸之里教会
眺光会ひかり保育園	津守町東四の二〇六	三五年四月二五日	代表者オグマル神父（仏人）

花園保育園	旭南通三の一	二七年九月一日	
大阪神愛館 ベビーセンター	西四条一の一五	三八年三月三〇日	設立日本基督教団鶴見橋教会
めぐみ保育園	南開町六の一四	二八年四月一日	

もと市立西成寮（松通七の六）

西成寮

本寮は近時まで存在していたが、昭和四二年七月廃止となった。はじめ更生施設として昭和二三年三月一日定員二〇〇名として開設をみたが、翌五月二棟を増築し定員四八〇名に増加した。そして二四年九月より病弱対象者の収容を開始し、二九年一〇月よりは病弱者専用更生施設となり、毎週火曜日梅田厚生館を経て収容し十分な生活指導を行ない、健康回復すれば、健康者施設に移すなりあるいは就職退寮等の社会復残を図るよう指導しつつあった。（三九年年定員を減じ二四〇名とした）

敷地 五、八四八平方メートル 建物 一、八二八平方メートル

財団法人 西成労働福祉センター（東入船町二三）

昭和三六年八月愛隣事件発生後、本事件の原因究明と再びかかる不祥事を起させないために、知事市長がたびたび協議研究の結果、事件の中枢をなしたと思われる暴力、闘争配師の排除が緊急のことであるとの結論に達した。しかし暴力手配師のもとには生計を維持する多数の労働者が存在し、他面従来労働者に再三職業安定機関の利用を勧奨したにもかかわらず、とかく多数の労働者は公的機関との接触を極度に敬遠する風があった。従ってこうした不正常的な雇用関係、立ち遅れの福祉状態の改善の

暴力手配師の排除

ためには、触法的就労関係を正規なルートにのせて安定を計り定職化を進めると同時に、就労以前の
問題、すなわち労務者の個々のケースに対する職業、医療、厚生等の相談にも応じ、その解決に助言
と実質的援助を図る要が認められた。

そこで大阪府は三六年九月あえず労働部西成分室を設置し、求人者の行なう合法的な直接募集の援
助と必要な一連の労働施策を講じたが、問題の根本的な解決には行政機関が直接手をさしのべるより
も、地域の特長から時宜に適した活動を取りやすい公私の協力による民間団体の組織の設立が適当
とされた。かくてその主なる事業である無料の職業紹介事業について労働大臣の許可を得、三七年一
〇月一日より事務開始した。その事業推進のためには職業紹介部、職業・生活相談部、厚生部の三部
を設け、職業紹介部では求人開拓、就労あっせんと職業紹介、常用化の促進、日雇労働者健康保険の
適用等につとめ厚生部では医療、生活援助、冬季あふれ援助など、相談部の各種相談とともに多角的
に実施し多大の効果をあげている。

敷地 一、五三六平方メートル 建物 延一、一六八平方メートル

社会福祉法人 大阪自彊館（今船町五）

本館は大阪府保安課長中村三徳が、明治四五年六月二五日釜ヶ崎地区改善のため多数の市民共鳴者
から零細な浄財の支援を得て創立したもので、当初私立大阪自彊館と称し、労働者の宿泊保護および
援産事業を開始、大正二年財団法人の設立許可をうけ、同年七月西区天保町に築港分館を設立し宿泊

大阪自彊館

保護事業を行なった。その後実費販売所、簡易食堂など開設したが、大正一五年館内に保育部あるい
は昭和二年には成人講座を開設し建物も随時増設をみた。そして終戦直後は大阪駅を中心とする戦災
浮浪者の收容所としてその更生保護に自力を傾倒した。

さらに二二年生活保護法施行に伴い更生施設の認可をうけ、翌二三年には司法保護団体を併設し、
さらに二六年には職業安定法による労働大臣の認可を得て無料労働紹介事業を強化した。また三年
には診療所を開設し、三九年九月には第二種宿泊所提供施設としての向上寮を改築し鉄筋四階建の寮
舎三、六五二平方メートルの完成をみた。

現況

- | | | |
|---------------------|----|------|
| 1 生活保護法による更生施設（自彊寮） | 定員 | 三四八名 |
| 2 同上指定医療機関診療所 | 病床 | 一四 |
| 3 職業安定法による無料労働紹介所 | | |
| 4 向上寮一貸間および单身男子宿舍 | 定員 | 二二四名 |

財団法人 和光寮（大阪自彊館内）

和光寮
本寮の母体である大阪自彊館は、共同宿泊所開設以来釜ヶ崎周辺の労務者を收容するとともに釈放
者の保護もつづけて来たが、終戦後大阪駅の浮浪者と多数の釈放者を收容した関係から司法保護団体
を併設した。そして二七年四月自彊館の構内に更生緊急保護法による財団法人和光寮としての設立認
可をうけ、以来更生者社会復帰に多大の成果をあげ来た。

更生保護会 収容定員 八二名
 宿舍 コンクリートブロック二階建一棟二一六・六四平方メートル
 食堂・炊事場・浴場・娛樂室・常設診療所は自強館共用、無料労働紹介所は自強館施設利用

救世軍朝光寮（松田町一の一九）

朝光寮
 本寮は売春防止法第一八条の規定にもとづく施設で、同法一六条第二項にいう要保護女子を収容し、精神修養・生活訓練・職業指導を行なって正常な女性として社会に復帰せしめることを目的としている。

その沿革としては、昭和二十一年一月次官會議の決定により厚生省社会局長より都道府県長官に発せられた婦人保護要綱にもとづき、日本救世軍本営が大阪府の委託をうけ、昭和二十二年六月二一日事業開始したものである。そして三一年五月二四日売春防止法の成立に伴い同法の規定する婦人保護施設として現在に至っている。

敷地 五二五・〇五平方メートル 建物 一三五・七二平方メートル

五 医療機関

西成保健所（旭南通二の七）

従来のが国医学は治療医学を主とし、とかく疾病の治療に重点がおかれ、疾病の予防は第二義的に

西成保健所の開設

考えられたため、本市の衛生事業としても沿革的にはまず医療事業が備わり、つぎに予防事業に及ぶ有様であった。かくて昭和十三年一月阿倍野保健所が最初の保健所として開設されたが、一八年一区一保健所主義が採られて、同年五月二〇日辰己通二丁目一四の九（旧塚西健康相談所）に西成保健所の開設をみた。しかしこれは戦災によって焼失したため、まず今宮市民病院内に移り、二二年三月田端通二―三のもと衛生組合事務所跡に移転した。さらに三四年三月旭南通二丁目に新築し現在に至っている。

敷地 二、一九七・八〇平方メートル 建物 八九二・三二平方メートル

保健所分室

保健所業務は極めて多岐にわたっているが、管内に愛隣地区を包含するところから、事件発生前の昭和三六年一月二〇日愛隣会館授産場内に保健所分室を設置し、同地区の実態の把握、業者の監視指導、各種健康相談、保健婦による家庭訪問等の事業を重点的に行なう拠点とした。そして三八年八月現在の愛隣会館とともに各種コーナーの一翼として、保健衛生の形で今日に至っている。

保健所の主要業務

保健所の業務

- 1 母親と子供のため――妊産婦、乳幼児の健康相談、栄養相談、育児教室母親教室開催、母子手帳の交付
- 2 学校、保育所、施設に対し――給食施設の衛生指導、給食従事者の検診、検便、学生児童の結核検診および予防接種
- 3 工場、事業所、商店等には――給食施設の衛生指導、衛生管理の相談指導、従業員の結核等健康診断、公害（騒音・ばい煙等）の防止
- 4 食中毒防止のため――飲食店、食品店、食品製造所、市場等の衛生指導、食品の鮮度、不良品有害物質の

検査、食品衛生営業の許可

5 環境営業を清潔にするため——旅館、公衆浴場、興業場、理容、美容、クリーニング業等の衛生指導、環境衛生営業の許可

6 住みよい町にするため——蚊、ハエ、ネズミ等の駆除殺虫薬（DDT、リンデン等）消毒薬の撒布その他防疫に関する事

7 伝染病予防のため——予防接種、ポリオ生ワクチンの投与等

8 結核の早期発見と医療費公費負担

9 狂犬病予防注射

10 保健婦の家庭訪問業務その他精神衛生、家族計画（受胎調節）等の相談指導、各種検査

主な傘下団体

保健所運営協議会、保健所結核検査協議会、西成区食品環境衛生関係連絡協議会、西成区ばい煙防止研究会、

西成地区保健福祉推進運営委員会

今宮市民病院（梅通二の三）

本病院の前身は今宮産院である。もともと本市が母性および胎児の保護施設として設立した最初のものは、大正九年四月北区本庄黒崎町に建設された本庄産院である。当時その建設資金寄贈者の一人であった林蝶子は、同院の事業成績の良好であるのに鑑み、この種施設の増設の要を痛感して、同年七月市の南部にさらに一カ所新設の希望をもって金三万円を寄付した。そこでこれに他の寄付金と市

今宮産院

費とを加え、東成郡天王寺村（現阿倍野区旭町）に天王寺産院を建設し、大正十一年六月事業を開始した。その後大正一四年四月市域拡張に際し、編入した旧西成郡今宮町より現在の松通五丁目にあった公民病院建物の引継ぎを受けることとなったため、大正一五年五月天王寺産院をここに移し、今宮産院と改称の上事業を継続した。

爾来市勢の進行に伴う人口増加により利用者の激増を来たし、左に對し、旧来の建物は狹隘で腐朽も甚だしく事業遂行上困難を来たしたのと、区画整理の関係があった。ために昭和一四年四月に至り現在の梅通二丁目三番地に経費五六万三千余円をもって新築工事を起し、翌一五年七月今宮産院として新発足した。このような経緯をもった産院であったが、その後これを市民病院に昇格せよとの要望が強く、これに應えて昭和二年六月三日在来の今宮産院を今宮市民病院と改称し診療を開始した。そして二八年一〇月には病室、事務室の一部を増築、また逐年内部施設を整備し来り、現在では内科、外科、産婦人科、小児科、眼科の五診療科をもつ充実した病院となった。（病床数七〇）

なお、本区の南部区界に近く市立住吉市民病院（住吉区東加賀町一丁目）があるが、本病院は二二年六月市民病院として開設したのを間もなく廃され、二五年一〇月再開院した一般綜合病院である。しかしその沿革は古く、もとは西成郡玉出町・今宮町・津守村および粉浜町の組合組織による伝染病院として津守村字雛畑八三八番地にあったのを、大正九年六月現地に新築移転したもので、編入後は市立桃山病院津守分院として存在していた。

今宮市民病院の誕生

住吉市民病院

済生会今宮
診療所

大阪府済生会今宮診療所（甲岸町二西成市民館内）

当診療所は済生会の全国組織のなかでも済生会創設のころからの施設で、もとは浪速区内にあった。はじめ大正二年四月一六日恵美須町二丁目二の借家において事業開始したが、同一三年四月且柄町に新築移転し、もっぱら貧困者の救療を行うと共に、昭和三年一〇月からさらに夜間診療を開始した。その後さらに入院施設の要を感じ、一一年一月から大阪府今宮病院と改称、一三年五月全館改築したが、戦災で焼失した。戦後東田町の旧今宮保護所跡に建てられた今宮市民館内に開設されたが、同市民館が現在地に移り西成市民館となると同時に、本診療所も移転し今日に至っている。創設以来常に低所得階層の医療救護にあたっているが、特に三六年の釜ヶ崎事件発生以後一層地域のつながりに努め日常の診療に効果ある活動を続けて来っている。

邦寿会今宮診療所（海道町）

今宮診療院

本所は当初大正一一年創立の戎診療院が昭和二年六月海道町に移転し今宮診療院となったもので、サントリーウイスキーの鳥井合名会社の経営であった。この戎診療院は大正一一年四月創立以来無料診療を行っていたが、同一五年大阪府が天王寺市民館にて事業一切を継承したため、今宮診療院を当区に建てたもので、同じく医療保護事業を行なう豊崎・此花各診療院と連絡しつつ、本市南部貧民の治療を行っていたが、戦後社会福祉法人となり邦寿会今宮診療所として現在も地区改善に貢献している。

第八章 上下水道

一 上水道事業

イ 本市の水道事業

水道の布設

大阪市に水道が誕生したのは明治二八年一月で、いまから七〇年前のことであった。当時の水道は淀川の水を桜の宮水源地で浄化して、大阪城の貯水池に揚水し、そこから自然流下で市内に給水するものであった。その後明治三〇年第一次市域拡張が実施され水道の需要が増加したため、明治三〇年ないし四五五年に第一回拡張工事を施行したが、市勢の発展に伴って淀川の河水が次第に汚染されたので、明治三七年頃から水源拡張予定地の調査が行なわれ、同四〇年に現在の柴島に水源地を建設することを決定、大正三年三月から給水されることとなった。

柴島水源地

この柴島水源地は、その後数次にわたって拡張、増設、改良等の諸工事が行なわれ現在に至っているが、同水源地の面積は約五六万平方メートル（二七万坪）で、緩速および急速ろ過設備を備え、施設の給水能力は一日九八二、〇〇〇立方メートルで、水源地の規模としてはわが国最大である。しかし水道の使用水量は市勢の発展に呼応して急激に増加し、水源施設の増強が必要となってきたが、淀